

(算数)

筋道を立てて考え表現し、伝え合い高め合う子どもの育成

—算数科における言語活動を通して—

大阪市立三軒家東小学校 鈴木泰子・本田淳子・岩田朱加・佐藤優衣

1. はじめに

本校では、学校教育目標に、「たくましい子・ねばり強い子・協力し合う子」を掲げ、基礎的、基本的な内容を身に付け、自ら学ぶ意欲や態度を育てるために日々の教育活動を進めている。

基礎的、基本的な内容を身に付けるために、学校では朝の学習で計算や漢字、読書タイムを設け 15 分間学習し、家庭学習でもその反復練習をすることを大切にしてきた結果、少しずつではあるが学習内容の定着が見られるようになってきた。

決められたことはできるようになってきたが、算数科で「的確な表現で簡潔に説明することができない。」「発表や話し合いの場では、みんなの前で自分の考えを説明することができない。」などの傾向がある本校の実態から、昨年度より「筋道を立てて考え表現し、伝え合う子どもの育成」を目指し、言語活動を通して学習を進めることにした。

2. 研究の内容

(1) 研究の視点

- 「出あう」「気づく」「考える」「振りかえる」「活かす」の五段階の学習過程の中で児童が主体的に取り組むことができる言語活動の工夫。
- 児童の発達段階に応じた言語活動の工夫。

(2) 実践事例

① 第一学年の実践「たしざん」

<算数科>

ノート指導

言葉や図を用いて表現できるように支援。
ブロックを使って考えた時、ブロックを
どう動かしたか、矢印を使って分かる
ようにした。

<帰りの会>

楽しかったこと発表

基本的な話型を用いた発表の徹底

「はい、〇〇です。」「はい、〇〇と思います。」
「話し方名人あいいうえお」
「聞き方名人かきくけこ」の常掲

分かりやすく順序立てて説明できるように
「せつめいカード」を準備

ペア学習

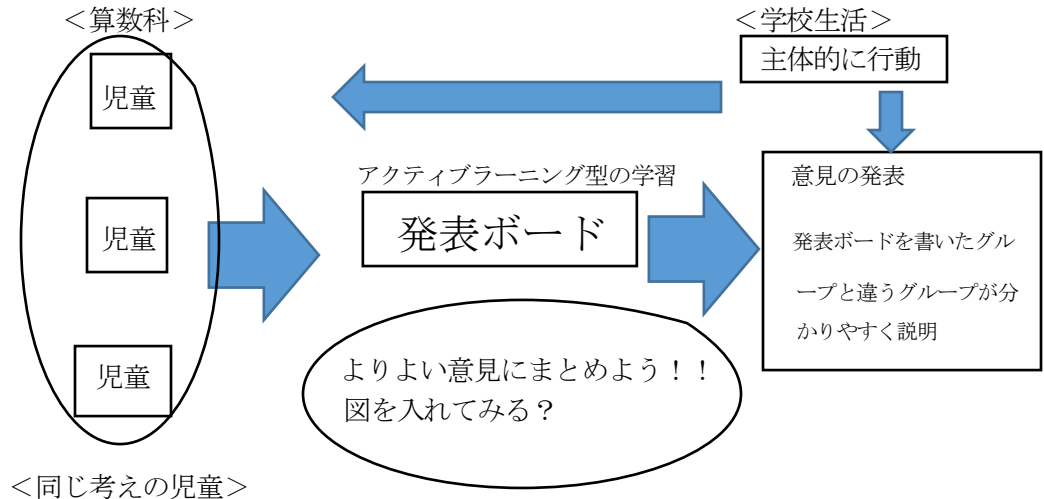
積極的な学習参加・個々の理解度チェック
助け合い・勇気づけ

言語活動の

基礎の徹底

友だちの考えが
分かった！
話して楽しい！

② 第五学年の実践「小数のわり算」



3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○「出あう」「気づく」「考える」「振りかえる」「活かす」の五段階の学習過程の中で児童が主体的に取り組むことができる言語活動の工夫。

→児童が楽しみ、積極的に授業を作っていこうとする様子が見られた。

○ 発達段階に応じた言語活動の工夫。

(低学年) 発表するときの話型をしっかり身に付けること。

→次第に自分の言葉で伝えることができるようになるための準備ができた。

(中学年) 発表ボードを書いた児童ではない児童が、書いた児童の考えを説明すること。

→書いた人の考えを十分理解したうえで説明することができた。

(高学年) 自力解決後に、自分の考えと同じ友達とよりよい考え方やその表現の仕方を練り合っていくこと。

→いかに分かりやすく伝えることができるかを楽しみながらグループで取り組む姿が見られるようになった。



友だち同士で協力して学び合う、アクティブ・ラーニング型の授業につながった。

(2) 今後の課題

○「出あう」「気づく」「考える」「振りかえる」「活かす」の五段階の学習過程の中で児童が主体的に取り組むことができる言語活動の工夫。

→意識調査の「考えを説明し合うのは楽しいですか。」では、「そう思う」が一学期に比べて二学期の方が少し下がった。話型などを徹底していく中で、児童の中にしつかり説明していかないと、という意識が出てきたのではないかと考える。

○算数科にとどまらず、他教科にも広げていきたい。